

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後デイサービスRetreat		令和7年 3 月 24日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		子どもの様子を観察し、構造化の工夫や改善が必要な時は迅速に環境調整を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		より活動に集中できるよう空間を分けるなどの工夫を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		個別対応やクールダウンのための部屋を用意し、子どもが安心して過ごせるよう配慮している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4			短いスパンで支援内容の場面設定の共有や振り返り、改善点を職員全員で行う時間をさらに多く持つ。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員間で保護者からのご意見を共有し、改善点を出し合い、意識している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1		意見を出しやすい工夫をし、改善していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		実施検討を行う。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4			来年度はより外部研修や法人内研修の回数を増やしたいと思う。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		R7.2支援プログラム公表を行った。	職員間で共有に努めていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		個別支援計画は子どもの課題と保護者のニーズ受を止め、丁寧に作成を行っている。どの職員も支援できるよう支援内容を細かく記載している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		それぞれ担当を振り分け、様々な価値観で子どもの支援が行えるよう工夫をしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		個別支援作成会議だけでなく、作成後も具体的支援の共有を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		職員それぞれの見立てを議論し、行動観察や支援による行動結果を分析する機会を設けている。	←より頻繁に回数を重ねていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		個別支援計画作成時にガイドラインと子どもの課題を照らし合わせ、具体的な支援内容作成に努めている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		週案の作成は担当制であるが、年間、月間の加圧同計画は職員全員で行っている。	

（援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		新しい活動に常にアンテナを張り、アイデアを出し合っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		個別活動が必要な児童は個別のメニューで作成を行っている。また、当日の様子等で臨機応変に支援できるよう努めている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		受け入れ前に情報共有を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	4		振り返りができない日もあるが、翌日等で共有する時間を持っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		支援記録、専門実施記録、音楽療法記録とそれぞれ記録をし、次回に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		半年に一回、個別支援の見直し、新しい課題や保護者、子どもの困りごとを把握できるよう保護者とのモニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		週に1回、選択遊びの時間を設け、子どもが自ら活動を選択し、自己決定の練習を促している。また、毎日の自由遊びの時間やおやつも選択できるよう工夫をしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		積極的に事業所から連絡し、情報共有を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		保護者にもご協力をいただきながら行っている。送迎時間のスケジュール調整のため、学校のご協力を頂くときは、早めの連絡を心掛けている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		ご協力いただける所には見学に出向き、情報共有に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4			これまでケースはないが、その際は情報の提供に協力したい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4		子どもの発達検査等の結果を得て、保護者から検査結果を見せていただいたり、直接アドバイスをいただき、支援に活かすよう努めている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3		地域の公園での活動や児童館での活動の際に地域のお子さんとの交流を意識していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		力に慣れずもどかしい所もあるが、できるだけ保護者の気持ちに寄り添い、共通理解を持てるよう努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4			家庭の困り感への支援としてできることと、家族の対応力の向上のバランスを模索しながらである。研修等の開催を計画していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			支援プログラムのについては公開したばかりなので十分に共有を行っている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		自分projectで子ども自身の将来像を子どもが考える時間を設けている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		送迎時にお話ができない保護者には個別支援計画書の同意を得る為、来所していただき、じっくりご説明をさせていただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		お電話やLINEで受けたお困りごとに対して面談が必要な場合は面談へと繋ぎ、子どもへの支援が必要な場合は即時対応できるよう努めている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4		今年度初めて、3月に茶話会を開催予定。	保護者会の開催はできていない。保護者と兄弟児向けのイベントも考えていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		子どもからの声は子ども会議等で取り上げている。改善できるところ、どうしたらよくなるか？を一緒に考えている。	保護者からの苦情は窓口を契約時にお伝えし、苦情があった場合は迅速に対応したい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		毎日Instagramで活動について投稿を行っている。月の活動予定は紙面で、連絡事項はLINEで行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の取り扱いについては契約時と新年度に同意を頂いている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		ジェスチャーやサインやイラスト等を使って子どもの特性に合わせて配慮を行っている。保護者へも協力を頂けるよう個別連絡を行う場合もある。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3		地域招待の機会をこれまで設けていなかったもので、どういう形で開かれた事業運営ができるのか検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		職員向けには研修を計画的に行っている。	保護者に向けてもマニュアルの公開や研修内容の共有等を行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		本年度は非常災害の訓練は月一回行っている。消防署から来ていただき、助言も頂いた。BCPも策定している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		てんかん発作や医療的ケアが必要な子どもには看護師の同席で聞き取りを行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			本年度までは食物アレルギーの子どもはいなかったが、来年度からは医師の指示書にもとづいて対応をする。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		緊急時の対応についてのプリントを配布している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			ヒヤリハットが発生した際は、報告、再発防止対策を行っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		職員研修を行っている。今後も虐待防止に努めていく。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		記載済み。	